



リム径 (インチ)	扁平率 (%)	タイヤサイズ	8桁コードNo	タイヤ寸法 (mm) 外径 幅	標準リム幅 (インチ)
18	45	225/45R18 91H	323293	662 221	7 1/2
	50	235/50R18 97H	323294	696 245	7 1/2
	45	225/45R17 91H	323295	636 219	7 1/2
17	50	215/50R17 91H	323968	650 220	7
		225/50R17 94H	323296	661 229	7
	55	225/55R17 97H	323297	683 230	7
16	60	215/60R17 96H	323281	692 221	6 1/2
	55	205/55R16 91H	323292	633 213	6 1/2
	60	195/60R16 89H	323284	642 201	6
		205/60R16 92H	323280	654 207	6
		215/60R16 95H	313541	667 220	6 1/2

リム径 (インチ)	扁平率 (%)	タイヤサイズ	8桁コードNo	タイヤ寸法 (mm) 外径 幅	標準リム幅 (インチ)
16	65	215/65R16 98H	313545	688 221	6 1/2
	60	185/60R15 84H	323282	606 187	5 1/2
	65	175/65R15 84H	313539	611 177	5
15		185/65R15 88H	323279	623 189	5 1/2
		195/65R15 91H	313529	637 201	6
	55	165/55R14 72H	323298	542 170	5
14	65	155/65R14 75H	313535	564 156	4 1/2
		175/65R14 82H	313543	586 179	5
	70	165/70R14 81S	323291	591 170	5
		175/70R14 84S	323283	606 178	5

タイヤ/ホイール装着・使用上のご注意

タイヤ、チューブ等の選定

- ①自動車製作者が指定した標準タイヤまたはオプションタイヤの使用を基本とし、その他のタイヤを選定される時は、タイヤ販売店等にご相談ください。
- ②全車輪とも、同一のサイズ、種類、構造、タイプ※のタイヤを使用してください。なお、自動車製作者が軸別にサイズの異なるタイヤを指定した場合は、その指示に従ってください。※タイプとは、夏用タイヤ、冬用タイヤ等をいう。
- ③サイズ、種類、構造、タイプの異なるタイヤを同一車輪に使用すると、タイヤ性能が異なるため、事故につながる恐れがありますので混用しないでください。(応急用タイヤは除きます。)
- ④リ・グループ、穴あけ等の加工をしたタイヤは、損傷したり、事故につながる恐れがありますので、使用しないでください。ただし、「REGROOVABLE」表示のあるタイヤで、規定された方法で加工されたものは除く。
- ⑤チューブ、フラップは、タイヤサイズと同一サイズ表示のあるもので、バルブは車両およびホイールに適合するものを使用してください。
- ⑥新品のチューブタイプのタイヤには、新品のチューブ、フラップを使用してください。
- ⑦新品のチューブレスタイヤを装着するときは、新品のチューブレス用バルブの使用を推奨します。
- ⑧ホイールの選定はタイヤ販売店等にご相談しタイヤサイズおよび車両に適合したホイールを使用してください。

適正使用と日常点検

- ①タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより定期的(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者の指定空気圧に調整してください。自動車製作者の指定空気圧は、車両の取扱い説明書、ドア付近等に表示されています。不明の場合はタイヤ販売店等にご相談ください。特に扁平タイヤの空気圧不足は、見た目にわかりづらいため、必ずエアゲージによる点検をしてください。
- ②タイヤに亀裂がないか、または釘、金属片、ガラス等が刺さっている、リムに石その他異物を噛み込んでいないかを確認してください。異物を発見した時は、タイヤ販売店等にご相談の上、取り除いてください。
- ③コードに達している外傷・ゴム割れのあるタイヤは使用しないでください。タイヤ損傷発生につながる恐れがあります。修理可能か否かについては、タイヤ販売店等にご相談ください。
- ④タイヤの溝深さの使用限度は、残り溝1.6mmです。それ以前に新品タイヤと交換してください。
- ⑤タイヤは自動車の安全にとって重要な役割を担っています。一方、タイヤは様々な材料からできたゴム製品であり、ゴムの特性が経時化するに伴い、タイヤの特性も変化します。その特性の変化はそれ環境条件・保管条件及び使用方法(荷重、速度、空気圧)などに左右されますので、点検が必要です。従って、お客様による日常点検に加え、使用開始後5年以上経過したタイヤについては、継続使用に適しているかどうか、すみやかにタイヤ販売店等での点検を受けられることをお奨め致します。また同時にスペアタイヤについても点検を受けられることをお奨め致します。また、外観上使用可能のように見えたとしても(溝深さが法律に規定されている値まですり減っていない場合も)製造後10年を経過したタイヤ(含むスペアタイヤ)は新しいタイヤに交換されることをお奨め致します。なお、車両メーカーがその車の特性からタイヤの点検や交換時期をオーナーズマニュアル等に記載している場合もありますので、その記載内容についてもご確認ください。
- ※ここに記載した10年という年数は、あくまで目安であって、そのタイヤの実際の使用期限(すなわち、継続使用に適していないこと、または安全上の問題があるかもしれないことを示す時期)を示すものではありません。従って、環境条件・保管条件および使用方法によって、この年数を経過したタイヤであっても、継続使用に適している場合もあれば、この年数を経過していないタイヤであっても継続使用に適していない場合もあります。10年を経過していないタイヤであっても、上記の環境条件等によっては交換する必要がある場合があることにご注意ください。また、この10年という年数およびタイヤ販売店等による点検のお奨め時期である使用開始後5年という年数は、いずれも各タイヤメーカー・販売会社・販売店による品質保証期間・期限を示すものでもありません。

- ⑥積雪および凍結路走行の場合は、冬用タイヤの残り溝が新品時の50%以上あることを確認してください。使用限度は接地部に冬用タイヤの摩耗限度を示すブラッドホーンが露出しているか否かで判断してください。溝深さが50%未満のタイヤは、冬用タイヤとしては使用できません。
- ⑦タイヤ損傷につながる恐れがありますので、車両に指定された積載量、定員を超えて使用しないでください。
- ⑧スペアタイヤの空気圧は、定期的(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者が指定した値に調整してお使いください。
- ⑨タイヤの位置交換は、車両の使用条件に合わせて、スペアタイヤも含め適正な方法で定期的に行ってください。(ただし、Tタイプ応急用タイヤは除く)
- ⑩タイヤサイド部に回転方向または取り付け方法等の指定があるタイヤは、その指定の通りに正しく装着してください。
- ⑪安全走行を確保するためタイヤ点検時に合わせて、リムバルブも劣化・亀裂がないことを点検してください。リムバルブに劣化・亀裂がある場合はタイヤ販売店等にご相談ください。また、バルブキャップがついているかどうかとも確認してください。
- ⑫ホイールには、亀裂、変形等の損傷や著しい腐食がないことを確認してください。
- ⑬鋼板/リンク修理剤またはタイヤつや出し剤等で、タイヤに劣化等有害な影響を及ぼすものは使用しないでください。
- ⑭応急用タイヤ、パンク応急修理用品で修理したタイヤおよびランフラットタイヤのパンク時の使用に関しては、自動車製作者の指定に従ってください。

運転時の遵守事項

- ①タイヤを傷つける恐れがありますので、道路の縁石等にタイヤの側面を接触させたり、道路上の凹みや突起物乗り越しなどは避けてください。
- ②急発進、急加速、急旋回および急停止は危険ですので避けてください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路は滑りやすく、事故につながる恐れがあるため、急カーブでは減速するなど、道路状況に応じた適切な運転をしてください。
- ③走行中は、常に走行速度に応じた車間距離を確保してください。特に湿潤路、積雪路および凍結路走行時は充分な車間距離を確保してください。
- ④走行中に車両が操縦不安定になったり、異常な音および振動を感じたときは、すみやかに安全な場所に停車し、車両およびタイヤを点検してください。タイヤに変形等異常がないか確認してください。また、外観上、異常がなくても、できる限り低速で移動し、タイヤ販売店等へ点検を依頼してください。
- ⑤タイヤのタイプやサイズを変更した場合は、タイヤの運動特性が変化しますので、慣れるまでは走行速度等に注意して運転してください。
- ⑥タイヤの制動性能は、車両の走行速度、路面状況、タイヤ溝の摩耗量およびタイプ(夏用タイヤ、冬用タイヤ等)により異なります。冬用タイヤは積雪路および凍結路面性能を重視しています。特に、乾線路および湿潤路で使用する場合は、実際の交通(速度)規制に従い、走行速度に注意し、急発進、急制動、急旋回を避け、安全運転に心がけてください。

タイヤチェーン使用時の注意事項

- ①タイヤチェーンは、タイヤサイズに適合するサイズのものを駆動輪または、自動車製作者が指定する位置のタイヤに装着してください。
- ②タイヤにチェーンを装着して積雪または凍結していない道路を走行すると、タイヤ、タイヤチェーンおよび車両を損傷したり、スリップする恐れがありますので、避けてください。
- ③タイヤチェーンを装着した場合は、次表の速度で走行してください。

道路	走行速度	
	金属製	非金属性
積雪路及び凍結路	30km/h以下	50km/h以下

リム組み時の注意事項

- ①エアークンプレッサーの調節弁は、タイヤ破裂の危険がありますので、タイヤの使用空気圧に応じ、次表により正しく調整してください。

エアークンプレッサー調節弁の最高調整空気圧	
タイヤの使用空気圧区分 <kPa (kgf/cm ²)>	調節弁の最高調整空気圧 <kPa (kgf/cm ²)>
400 (4.0) まで	500 (5.0)
400 (4.0) 超~600 (6.0) まで	700 (7.0)
600 (6.0) 超~1,000 (10.0) 未満	1,000 (10.0)

- ②破裂の危険を避けるため、タイヤを安全囲いの中に入れる等、安全措置を講じた上、空気を充填してください。
- ③空気充填時または充填後タイヤサイドウォール部からの異音が聞こえたら、ただちに作業を中止し、避難すること。
- ④自動車用タイヤの組み立て時のビードシーディング圧は、300kPa(3.0kgf/cm²)とし、これを超える圧は注入しないでください。ビードシーディングとは、タイヤ組み立て時に、タイヤの両側のビードがリムのビードシート部に周上均等にのった状態(ハンプリムは、ビードがハンプを超えた状態)をいいます。Tタイプ・折りたたみ式応急用タイヤ、ランフラットタイヤ、その他製造業者の指定がある場合は、それに従ってください。
- ⑤ビードシーディング圧以内の空気を注入し、タイヤの両側のビードがリムのシート部に周上均等になっていることを確認した後、使用空気圧に充填または調整してください。(均等になっていない場合は一旦空気を抜き、タイヤをリムから外してタイヤ、リム等に異常がない事を確認し、ビードおよびリムに潤滑剤を再度塗布してください。)
- ⑥空気を充填後、バルブキャップを取り付ける前に、バルブコアからの空気漏れ、リム部やバルブまわりからの空気漏れがないことを確認した後、必ずバルブキャップを装着し、しっかり締め付けてください。

タイヤの保管

- ①タイヤ、チューブは、直射日光、雨および水、油類、ストーブ類の熱源および電気火花の出る装置に近い場所等を避けて保管してください。

その他のご注意

- ①使用済みタイヤは不法投棄せず、専門業者に依頼するなど必ず適切な方法で処分してください。なお、使用済みのタイヤを処理するのには費用がかかります。
- ②タイヤには製造番号が刻印されています。2000年以降の製造番号では、下4桁(例1213)の数字で製造年週を示しています。最初の数字12は週(12週目)を、最後の数字13は年(2013年)を示します。1989年以前の製造番号では、下3桁(例159)の数字で製造年週を示しています。最初の数字15は週(15週目)を、最後の数字9は年(1989年)を示します。
- ③タイヤ寸法はJISまたはJATMA、ETRTO、TRA規格空気圧充填時の数値です。
- ④タイヤサイズによって掲載のタイヤ写真とパターン、サイドデザインが若干異なる場合があります。
- ⑤当カタログに記載されている6桁コード、構造、仕様等は予告なく変更する場合がありますので、タイヤ販売店に適宜お問い合わせの上、ご確認ください。
- ⑥弊社カタログ、ウェブサイト掲載タイヤおよび新車装着タイヤならびに弊社にて輸入された製品以外の製品の設計・製造・指示警告に関する苦情や補償の請求については弊社では対処しかねます。



住友ゴム工業株式会社
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

東京本社/タイヤ国内リプレイス営業本部
〒135-6005東京都江東区豊洲3丁目3番3号(豊洲センタービル)
●ファルケンのインターネットホームページ <http://www.falken.co.jp>

タイヤお客様相談室 電話 0120-39-2788
受付時間 平日(月~金) 9:00~12:00 / 13:00~17:00
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

月に一度は空気圧の点検を!

タイヤの価格はオープンプライスです。

タイヤの製品等に関するお問い合わせは、一般社団法人日本自動車タイヤ協会でも承っています。

ご相談とお求めは...



適正表示で安心タイヤ選び
タイヤ公正取引協議会
当社はタイヤ公正取引協議会の会員です。